

「個性とともに」

藤岡市立小野中学校

1年 大前 衣里陽

「コンプレックス」・・・ネットで検索すると、難しい言葉がいくつか並んでいて、最後に「日本語で言うと『劣等感』と書かれていました。劣等感も難しいので、検索すると、「自分が他人より劣っているという感情」と書かれていました。

皆さんは、持っていますか？コンプレックス？と言って人も人から見れば全然大したことない！って言われたり、成長したら改善されたりとか、手術をして変えてしまう事ができるものなど、人によって感じ方や考え方は様々だと思うのですが・・・。

私は持っています。コンプレックス。それは、「吃音」という言葉の障害です。

吃音は言葉を発するのに必要となる器官に特別に異常が無いにも関わらず、言葉を滑らかに話すことのできない発話障害の一つです。簡単に一言で言うと「どもり」です。

自然治癒する人もいる一方で、一生付き合っていかなければいけない人もいますそうです。

私は、生まれた時には親戚の中でも一番くらいに言葉を発するのが早かったらしく、「ママ」「パパ」「ブーブー」など沢山の言葉も覚えていたらしいのですが・・・保育園の年中の時、ある日突然「吃音」になってしまったそうです。原因不明です。

私はこの「吃音」という障害のせいで、結構辛い日々を送ってきました。低学年の頃は人に聞かれたくないから、人に話しかける事も出来ず、友達も少なかったです。国語の本読みも先生に指されるのが怖くて、学校を休みたくなる日だっていました。新しいクラスでの、自己紹介なんて最悪です。何日も前から緊張して、眠れないなんて日もありました。

だから、私は少しでも発音がしっかり上達する為に、1年生から6年生まで「通級教室」に通いました。通級教室とは、小学校などで一部の授業を通常の学級とは別の通級指導教室で受ける制度の事で、「通級」とも呼ばれています。

通級教室では、学習や生活の困難を解消するために、その子ども一人ひとりの特性に合わせた授業を行ってくれる所です。水曜日、学校の授業が終わったら、父や

母に送ってもらい、約1時間くらい発音などの練習をしました。そこには沢山の優しい先生達がいて、学年が上がるにつれて少しずつですが、話せるようになってきました。

そして、通級教室のある先生が、「心配しなくて大丈夫だよ。実は吃音だった有名人も結構いるんだよ。」と言ったので、家に帰って検索してみると、日本の俳優さんや、スポーツ選手。言葉を使った仕事のアナウンサーさんまでいたんです。・・・何だか今まで、一人だけだと思っていたこの「吃音」という障害が、全然大したことないぞ！

って背中を押されてる気持ちになりました。その中でも特に私の心に残った人物は、アメリカ合衆国第46代大統領のジョー・バイデンさんです。バイデンさんも小さい頃から「吃音」に悩まされてきたそうです。いじめに逢った事もあるそうです。でも、バイデンさんは発声練習を沢山したり、隠そうとせず人前であえて発表してみたりと挑戦を続けたそうです。そして、見事アメリカの大統領にまでなりました。今でも「どもる」事はあるそうですが、「何も羞じることはない！」と世界中の吃音という障害を持つ人達の希望となつたと、書かれていま

した。

そしてそんなある日、昔サッカーをやっていた父が、サッカーをテレビで観戦しながら、私に「観てごらんサッカーにはね、背の高い人や低い人もいるだろ？背が高い人はヘディングも強いし、空中戦は頼りになる。そして、背の低い選手は、背の高い人にはできないボールコントロールできたり、素早く動くことができる。あの有名なメッシだってパパより小さいんだぞ。そんな個性を持った人達が集まって1つのチームを作っている。衣里陽のクラスもそうだろ？みんな同じだったらつまらないだろ？みんな違うからいいんじゃない！」って言っていました。そしてある人もこんな事をテレビで言っていました。

「コンプレックス」は「個性」だと！私は、今大切な友達があります。授業の中でもっとも、笑いません。自信を持って会話ができます。もう小さい頃、持っていた劣等感も感じなくなりつつあります。昔は「一生治らなかつたらどうしよう・・・」と思っていたこの吃音も、今は「一生治らなくても、上手に付き合っていこう」と思えるようになってきました。もしこの中でコンプレックスがあつて悩んで苦しんでいる人、自信が持てない人がいたら聞いて欲しい。大丈夫！「もっと、個性を大切にしてみませんか？世界に一つしかない大切な個性を！」